

## 会議・協議等記録簿

議 題	<b>第 5 回佐久市生物多様性専門家会議</b>		
日 時	令和6年2月22日（木） 9：30～正午	場 所	佐久市役所 501会議室
出席者	委 員：出席7名 事 務 局：環境政策課長、環境保全係長、環境保全係2名、 耕地林務課林務係、コーディネーター		
<b>会 議 ・ 協 議 等 事 項</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 会長あいさつ</li> <li>3 会議事項                     <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 令和5年度調査実験結果について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和5年度 生物多様性保全活動検証事業 調査実験業務 報告書」を説明。中間報告においても、シカによる植物への影響は指摘されていたが、報告書により、調査地はシカの影響を強く受けていることが委員によって推定された。</li> </ul> </li> <li>(2) 令和5年度調査実験結果からの考察について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度の調査は基礎調査であり、これによって、多様度の判定はできない。今年度の調査は、来年度以降の植生の変化を見ていく基準となるものであることを伝え、委員から同意をいただく。</li> <li>・委員から今年度の調査は狭い範囲の点の調査であり、今後、地域において広い範囲の面の調査が必要ではないかと提案された。</li> <li>・委員から災害につながるかどうかについては、目視では斜面の露出、水が流れたのではないと思われるものはあるが、証拠はない。防災科学技術研究所としては継続して調査を実施する予定であるとの報告がされた。</li> <li>・報告書では、ライトセンサスで確認できた頭数は、季節、天候、捕獲の影響によると考察されたが、牧場出現のシカの頭数減少と、森林内のシカの頭数の関連性が示されていないのではないかと委員から指摘があった。</li> <li>・望月高原牧場周辺の内は、下層植生の状態から防災の視点が必要となってくる。防護柵でも植物が回復してこない場合は、防災の専門家のアドバイスが必要となってくる。</li> <li>・広大な牧草地があり、そのシカが自由に出入りできるということがシカの頭数増加に関わっているが、土地利用ということが今後の課題となってくる。</li> </ul> </li> <li>(3) 令和6年度事業展開について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議では、提出された報告書を基に、植生の回復に向けた植生回復柵12基の設置箇所の承認を得た。柵の設置期間については、通年の設置が必要であると提案があった。</li> <li>・委員から、植生回復柵の効果を確認するために、植被度の比較が必要であると提</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol>			

## 会議・協議等記録簿

案があった。

- ・ 委員から、生物多様性の減少の一因となっているシカの頭数コントロールに向けて、本年度はカメラ設置数が少ないために設置台数の増加が必要と提案された。
- ・ 委員から、シカの捕獲に向けて牧場周辺のカメラ設置台数の増加を提案された。
- ・ 委員から、林内においては、シカの痕跡が強く見られる獣道へのカメラ設置を提案された。

### (4) その他

- ・ 調査地点でのシカによる影響が大きいことは理解していた。現在猟友会の会員の高齢化が進み、捕獲者が減少しているが、佐久市の捕獲には協力していきたい。

### 4 閉会